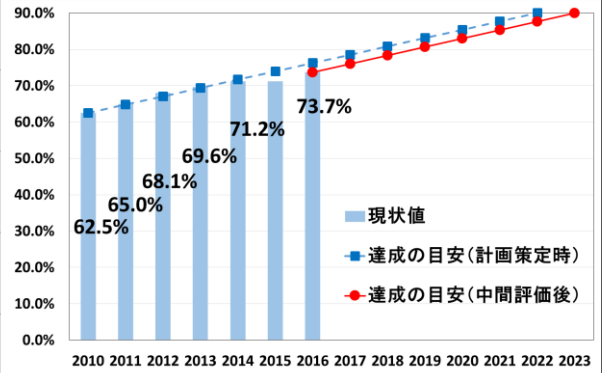


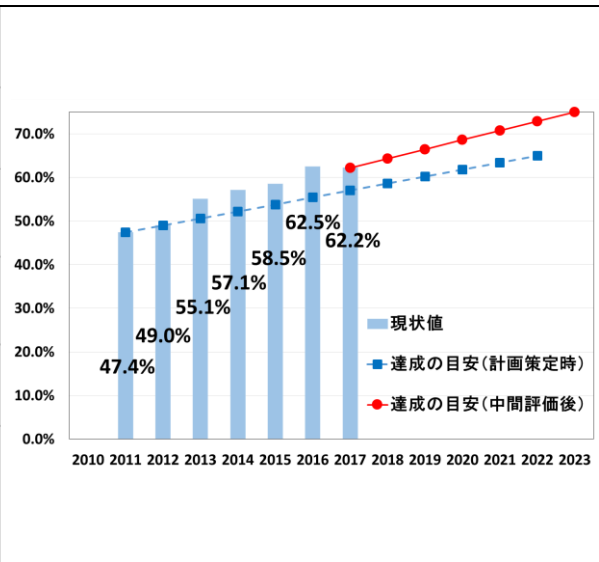
領域	1 生活習慣の改善	評価	B
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	①3歳児でう蝕のない者の割合の増加		
指標	3歳児でう蝕のない者の割合		
データソース	3歳児歯科健康診査		
分析・評価	現状値が基準値の62.5%から11.2ポイント増加の73.7%であり、目標値の90.0%に達していないものの改善傾向である。		



指標の見直しの検討	目標値の90.0%を維持する。														
-----------	-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023		
	現状値	62.5%	65.0%	68.1%	69.6%	71.2%	71.2%	73.7%									
	標本数	9,775人中 6,114人	9,885人中 6,421人	9,446人中 6,429人	9,404人中 6,548人	9,425人中 6,711人	8,928人中 6,360人	8,909人中 6,568人	目標値維持								
	達成の目安 (計画策定時)	62.5%	64.8%	67.1%	69.4%	71.7%	74.0%	76.2%	78.5%	80.8%	83.1%	85.4%	87.7%	90.0%			
	達成の目安 (中間評価後)							73.7%	76.0%	78.4%	80.7%	83.0%	85.3%	87.7%	90.0%		

領域	1 生活習慣の改善	評価	B
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	②3歳児で過去1年間にフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合の増加		
指標	3歳児で過去1年間にフッ化物歯面塗布を受けたことのある者の割合		
データソース	幼児間食摂取状況等調査		
分析・評価	現状値が基準値の47.4%から14.8ポイント増加の62.2%であり、目標値の65.0%に達していないものの改善傾向である。		



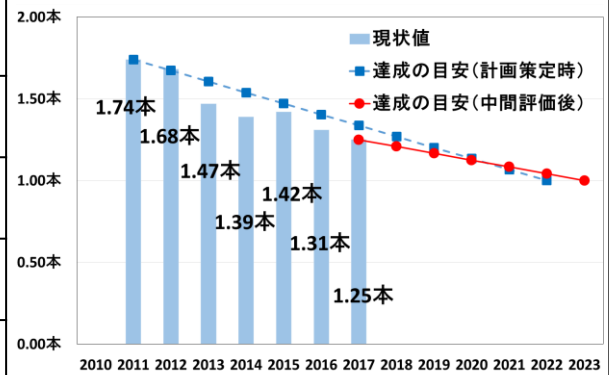
指標の見直しの検討

現状値が目標値に近接しており、より高い目標設定が適当である。  
 新目標値は、う蝕予防としてフッ化物歯面塗布の有効性に対する保護者の理解が進み、フッ化物歯面塗布に取り組む市町村が増加している現状から75.0%とする。

データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
	現状値			47.4%	49.0%	55.1%	57.1%	58.5%	62.5%	62.2%					
標本数			9,881人中 4,680人	9,461人中 4,636人	9,407人中 5,187人	9,438人中 5,393人	8,909人中 5,212人	8,887人中 5,558人	8,894人中 5,530人						
達成の目安 (計画策定時)			47.4%	49.0%	50.6%	52.2%	53.8%	55.4%	57.0%	58.6%	60.2%	61.8%	63.4%	65.0%	
達成の目安 (中間評価後)									62.2%	64.3%	66.5%	68.6%	70.7%	72.9%	75.0%

旧目標値 65.0%  
↓  
新目標値 75.0%

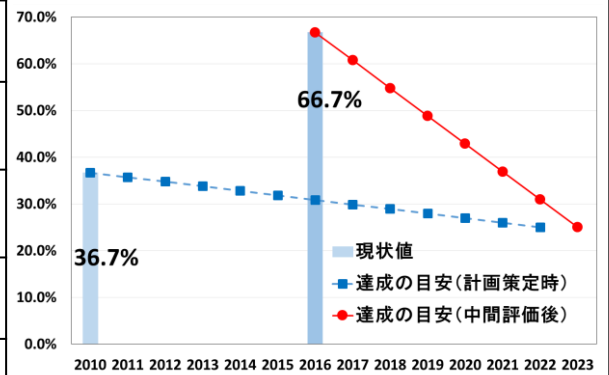
領域	1 生活習慣の改善	評価	B
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	③12歳児の一人平均う歯数の減少		
指標	12歳児の一人平均う歯数		
データソース	県教育委員会学校保健調査		
分析・評価	現状値が基準値の1.74本から0.49本減少の1.25本であり、目標値の1.00本未滿に達していないものの改善傾向である。		



指標の見直しの検討	目標値の1.00本未滿を維持する。														
-----------	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	
	現状値		1.74本	1.68本	1.47本	1.39本	1.42本	1.31本	1.25本							
	標本数		悉皆	悉皆	悉皆	悉皆	悉皆	悉皆	悉皆	目標値維持						
	達成の目安(計画策定時)		1.74本	1.67本	1.61本	1.54本	1.47本	1.40本	1.34本	1.27本	1.20本	1.13本	1.07本	1.00本未滿		
	達成の目安(中間評価後)								1.25本	1.21本	1.17本	1.13本	1.08本	1.04本	1.00本未滿	

領域	1 生活習慣の改善	評価	D
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	④40歳代における進行した歯周炎を有する者(注12)の割合の減少		
指標	40歳代における進行した歯周炎を有する者(注12)の割合		
データソース	青森県歯科疾患実態調査		
分析・評価	現状値が基準値の36.7%から30.0ポイント増加の66.7%であり悪化傾向である。		

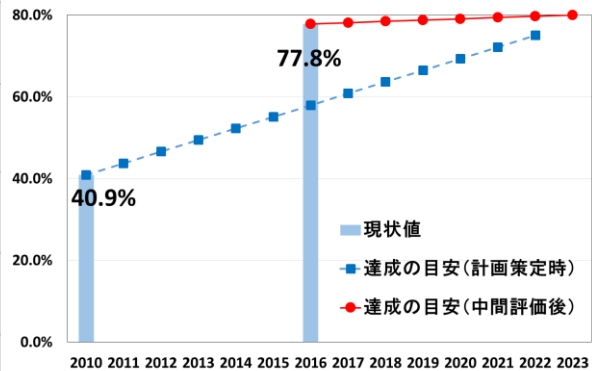


指標の見直しの検討	目標値の25.0%を維持する。														
-----------	-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
	現状値	36.7%							66.7%						
標本数	30人中11人							27人中18人							
達成の目安 (計画策定時)	36.7%	35.7%	34.8%	33.8%	32.8%	31.8%	30.9%	29.9%	28.9%	27.9%	27.0%	26.0%	25.0%		
達成の目安 (中間評価後)							66.7%	60.7%	54.8%	48.8%	42.9%	36.9%	31.0%	25.0%	25.0%

(注12) 40歳代における進行した歯周炎を有する者とは、青森県歯科疾患実態調査の対象者である40～49歳の者のうち、歯科医師による口腔診査の結果、歯周ポケットが4mm以上であると診断された者をいう。

領域	1 生活習慣の改善	評価	A
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	⑤40歳で喪失歯のない者(注13)の割合の増加		
指標	40歳で喪失歯のない者(注13)の割合		
データソース	青森県歯科疾患実態調査		
分析・評価	現状値が基準値の40.9%から36.9ポイント増加の77.8%であり、目標値の75.0%に達している。		



指標の見直しの検討

目標値に達しており、より高い目標設定が適当である。  
 新目標値は、当面の間この年代の8割の者が歯を喪失しないことが望ましいことから80.0%とする。

データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
	現状値		40.9%						77.8%						
標本数		22人中9人						27人中21人							
達成の目安(計画策定時)		40.9%	43.7%	46.6%	49.4%	52.3%	55.1%	57.9%	60.8%	63.6%	66.5%	69.3%	72.2%	75.0%	
達成の目安(中間評価後)								77.8%	78.1%	78.4%	78.7%	79.1%	79.4%	79.7%	80.0%

旧目標値 75.0%  
↓  
新目標値 80.0%

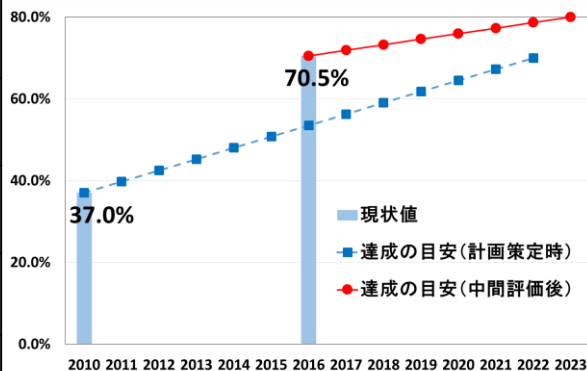
<参考> 青森県県民健康・栄養調査の結果

	2016 (H28)
自分の歯(※)が28本以上と回答した35~44歳の者の割合 ※自分の歯には、親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含まない。親知らずを抜くと全部で28本が正常だが、28本より多かったり、少なかったりすることもある。	59.8% (127人中76人)

(注13) 40歳で喪失歯のない者とは、青森県歯科疾患実態調査の対象者である35~44歳の者のうち、歯科医師による口腔診査の結果、喪失歯がないと診断された者をいう。

- なお、喪失歯の定義は以下のとおり。
- ・抜去または脱落により喪失した永久歯をいう。ただし、親知らずは含めない。
  - ・インプラントは喪失歯とする。
  - ・先天性欠如または何らかの理由で歯を喪失したことが明らかであっても、歯列等の関係から補綴処置の必要性が認められないものについては、喪失歯に含まない。

領域	1 生活習慣の改善	評価	A
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	⑥60歳で24歯以上の自分の歯を有する者(注14)の割合の増加		
指標	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者(注14)の割合		
データソース	青森県歯科疾患実態調査		
分析・評価	現状値が基準値の37.0%から33.5ポイント増加の70.5%であり、目標値の70.0%に達している。		



指標の見直しの検討	目標値に達しており、より高い目標設定が適当である。 新目標値は健康日本21(第二次)と同じ80.0%とする。
-----------	---

データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
	現状値		37.0%						70.5%						
標本数		73人中 27人						44人中 31人							
達成の目安(計画策定時)		37.0%	39.8%	42.5%	45.3%	48.0%	50.8%	53.5%	56.3%	59.0%	61.8%	64.5%	67.3%	70.0%	
達成の目安(中間評価後)								70.5%	71.9%	73.2%	74.6%	75.9%	77.3%	78.6%	80.0%

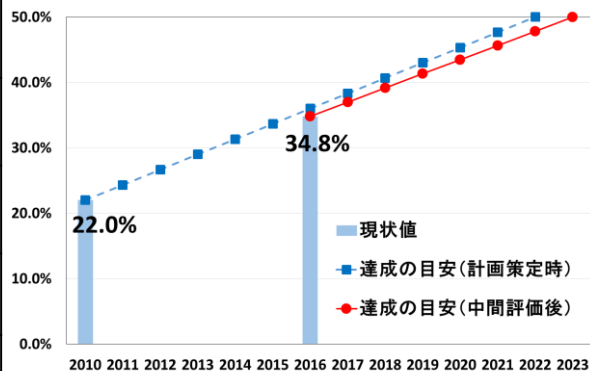
旧目標値 70.0%  
↓  
新目標値 80.0%

<参考> 青森県県民健康・栄養調査の結果

	2016(H28)
自分の歯(※)が24本以上と回答した55～64歳の者の割合 ※自分の歯には、親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含まない。親知らずを抜くと全部で28本が正常だが、28本より多かったり、少なかったりすることもある。	51.7% (145人中75人)

(注14) 60歳で24歯以上自分の歯を有する者とは、青森県歯科疾患実態調査の対象者である55～64歳の者のうち、歯科医師による口腔診査の結果、24歯以上の自分の歯があると診断された者をいう。

領域	1 生活習慣の改善	評価	B
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	⑦80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(注15)の割合の増加		
指標	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(注15)の割合		
データソース	青森県歯科疾患実態調査		
分析・評価	現状値が基準値の22.0%から12.8ポイント増加の34.8%であり、目標値の50.0%に達していないものの改善傾向である。		
指標の見直しの検討	目標値の50.0%を維持する。		



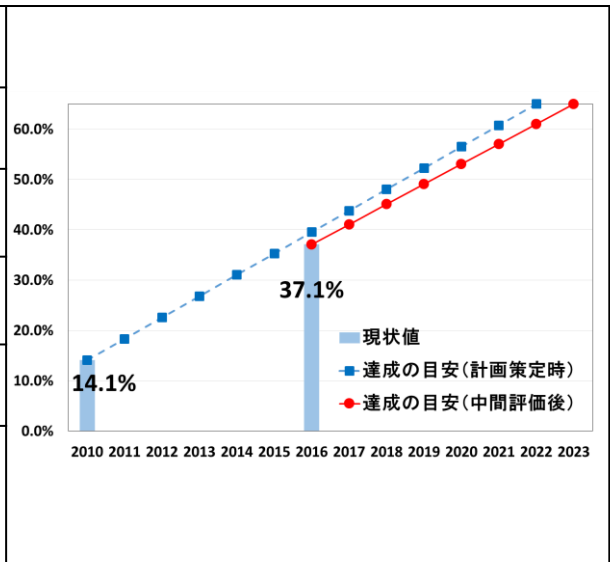
データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
	現状値		22.0%						34.8%						
標本数		59人中13人						46人中16人							
達成の目安(計画策定時)		22.0%	24.3%	26.7%	29.0%	31.3%	33.7%	36.0%	38.3%	40.7%	43.0%	45.3%	47.7%	50.0%	
達成の目安(中間評価後)								34.8%	37.0%	39.1%	41.3%	43.5%	45.7%	47.8%	50.0%

<参考> 青森県県民健康・栄養調査の結果

	2016(H28)
自分の歯(※)が20本以上と回答した75~84歳の者の割合 ※自分の歯には、親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含まない。親知らずを抜くと全部で28本が正常だが、28本より多かったり、少なかったりすることもある。	31.0% (113人中35人)

(注15) 80歳で20歯以上自分の歯を有する者とは、青森県歯科疾患実態調査の対象者である75~84歳の者のうち、歯科医師による口腔診査の結果、20歯以上の自分の歯があると診断された者をいう。

領域	1 生活習慣の改善	評価	B
分野	(5) 歯・口腔の健康		
目標項目	⑧過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加		
指標	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合(20歳以上)		
データソース	青森県県民健康・栄養調査		
分析・評価	現状値が基準値の14.1%から23.0ポイント増加の37.1%であり、目標値の65.0%に達していないものの改善傾向である。		



指標の見直しの検討  
目標値の65.0%を維持する。

データ	年度	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023
	現状値		14.1%						37.1%						
標本数		753人中 106人						886人 中329人							
達成の 目安 (計画策 定時)		14.1%	18.3%	22.6%	26.8%	31.1%	35.3%	39.5%	43.8%	48.0%	52.3%	56.5%	60.8%	65.0%	
達成の 目安 (中間評 価後)								37.1%	41.1%	45.1%	49.1%	53.0%	57.0%	61.0%	65.0%